

演奏に  
役立つ

One Point Lesson

# PERCUSSION

パーカッション

安藤芳広 あんどう・よしひろ



- ◆出身 都立豊多摩高校、東京芸術大学
- ◆所属 東京都交響楽団、武蔵野音楽大学、なにわ(オーケストラ)ウィンズ
- ◆趣味 食べる、読む、飲む、歩く
- ◆血液型 A型
- ◆星座 ふたご座
- ◆読者にひとこと 落ち着いて! でも進んでいこう
- ◆手紙の送り先 BJ 気付

今月も「叩いて」「観察して」「感じて」みよう

「叩く」とか「打つ」って当たり前のよう  
に言うけれど、よく考えたら、なんだか痛そ  
うだよな? (泣笑) もちろん楽器が痛みを  
感じるわけではないけれど、楽器を通して自分  
の言葉話し、歌を歌おうと思ったら、やっ  
ぱり楽器にもいい気分ではもらわないと!

ではどうしたら楽器は喜んでくれるのか。  
実は、(パチの)跳ね返りが大切だと言っ  
てきた理由はそこにある。

## ■力まかせに叩けばいいのか?

楽器だってみんなと同じ、むりやり何かを  
させられていいわけがない。自然な跳ね返り  
は、楽器にむだな力が加わらない状態を作る、  
つまり、楽器を最大限に響かすためにいちば  
ん大切なことなんだ。

わかりやすい例として、ティンパニの上に  
パチの頭を下にして、ただ落としてみよう  
([写真] / 頭の硬いパチの方がわかりやす  
い)。当然、パチは皮の上で弾む(=自然に  
跳ね返ってくる)けれど、このときの発音は、  
実に音程感のハッキリした雑音の少ない音色  
だということに気づくはず。そう、この音こ  
そが合奏の中でも大きな会場でも、そして決  
して大きな音でなくても、ちゃんと人の耳に  
届く「聞こえる音」なんだ。

となれば……、太鼓(特にティンパニや  
大太鼓)を演奏しているとき、「もっとハッ  
キリした音で!」と言われて「しっかり発音  
させなくちゃ!」と力いっぱい叩きこむのが  
大間違いなのわかるよね? 見当違いにひ  
っぱたかれて心を開く人なんていないのと同  
じで、やみくもに力を

[写真]



こめられたら、楽器だ  
ってムカッしたり、  
かたくなになるかも!?  
今のは冗談だけど、  
過剰な力は皮自体の振  
動を止めることになる  
から、結果として聞こ

えるのは「ビヤーン」というきたくない音だけ。  
この音は楽器が気持ちよく響くことで生まれ  
る音とは対極にあるので、どんなに大きく叩  
いても決してハッキリとは聞こえない。

## ■練習1

目ざすべき「音」のイメージを持てたところ  
で、今回はこれまた初回から掲げている「自  
分観察」について、実際に練習をしながら話  
をまとめてみよう。6月号で紹介した小太鼓  
や練習台、または硬い机のような跳ね返りの  
よいものを用意して、リズム打ちの練習をも  
う一度やってみよう。

パチの持ち方や手首の使い方にも気をつけ  
ながら、まずはできるだけ速く叩いてみて。  
リズムを一定に保ち、動かしている腕自体を  
常に意識するのは当然のこと。左右の手が均  
等な音を出せるように心がけながら、とにか  
く速く叩いてみる。思った通りにはできない  
かもしれないけれど、ここではスピードを落  
とさず、とにかく叩き続けること。

叩き続けながら、これに加えて「叩くスピ  
ード」「リズムの正確さ」「音の均等さ」を見  
直し、できていないところはそのつど修正す  
るように試みよう。ここまでですと、これが  
どれほど難しいかを思い知るんじゃない?  
それでも、あえて必死にやってみよう!

はい、ストップ。今のご気分は? 当然疲  
れたよね。身体中のいろんなところが力んで  
しまっていたかもしれないし、自分の今やっ  
ていることが「これで合ってるの?」と、か  
えって不安になっちゃったりして。

## ■練習2

では次、今度は自分の好きなスピードで叩  
いてみよう。ここでは「正しくやらなきゃ」  
なんてことは気にせず、「合っているかどう  
か」でもなく、ただ「両手のリズムがどうな  
っているか」を注意深く聞いてみる。もし左  
右の音が均等でなかったとしても、ここでは  
修正なんて考えなくていいから、あくまでも

両手の自然な動きを優先してみる。

もしどこかに力みを感じたら、リズムより  
もリラックス! そして「気持ちよくリズム  
をつなげられているな」と思えてきたら、今  
度は思い切って叩く行為自体から注意はず  
し、そのリズムを伴奏に、自分の好きな歌を  
口ずさんでみよう。

はい、ストップ。ここで思い出してほしい  
のが、初回で話題にした「好きなことをして  
いる時の自分観察」。もしかして……、けっ  
こう近いものを感じてくれたんじゃないかな?

## ■自分なりの「ベストバランス」を

練習1と練習2。それぞれの試みから聞こ  
えてくる音楽が、そしてそこから得られる感  
覚や成果が明らかに違うという事実を確認し  
てもらおうこと。音楽する上で、そのハッキリ  
違う要素は、どちらも必要なものと気づい  
てもらおうこと。あえて「極端に違う2つのパ  
ターンを続けてやってみる」ことを提案した  
狙いは、実はそんなところにある。そして何  
より大切なのは、それらの「バランス」なんだ。  
「努力」はもちろん必要さ。けれど、音楽  
しようとする僕らにとって、努力はそのため  
に必要となる、大事な要素の中の一つでしか  
ない。努力すること自体にウエイトを置きす  
ぎて、その過程や、努力することが生み出す  
結果としての「音楽」に目がいかなくなると  
したら、それは本末転倒というものだ。

そして同じように見落としてほしくないの  
は、叩くこと自体にとらわれず、自由に音楽  
しているときにみんなの中から聞こえてくる  
歌、感じるビート。そして、それらがあるか  
らこそ発揮される、一人ひとりが持っている  
であろう、表現する力。

日々太鼓と向き合う時間の中で、いろんな  
自分を見つけながら、少しずつ理想の演奏や  
音楽へと近づけるよう、自分の「ベストバラ  
ンス」を探してほしい! これが「自分観察」  
をみんなに課し続けてきた僕の思いです。